

# 基礎研 レター

## 消費者調査にみる医療保険に 関する誤情報 ～医療保険に関するクイズ正答率の分析

保険研究部 研究員 村松 容子  
e-mail: yoko@nli-research.co.jp

医療保険は消費者からの関心が高く、初めて加入する生命保険商品が医療保険である人も少なくない。しかし、死亡保障商品等と比べると仕組みが複雑で、商品によって保障内容が大きく異なるためか、誤解も多いようである。そこで、本稿では、ニッセイ基礎研究所で実施している「生命保険マーケット調査（2011年度）<sup>1</sup>」の医療保険に対するクイズへの回答結果を使って、医療保険に対する誤解の状況を分析する。

### 1——医療保険は難しい

生命保険マーケット調査によれば、初めて加入した保険が医療保険である割合は加入者全体の26%と他の商品種類を上回る。また、生命保険に加入する意向をもつ非加入者の67%が、加入目的として「病気やケガの際の治療や入院費用に備えるため」をあげていることからわかるように、医療保険は、生命保険にあまり詳しくない消費者からも関心が高い。

しかし、医療保険は、繰り返し給付を受けるケースもあれば、状況によっては病気になっても支払われないケースもある。また、商品によって給付内容が異なることもあるほか、同じ会社の商品であっても、疾病発生動向にあわせて保障内容は変遷している。こういった点で、貯蓄保険や死亡保険より複雑で難しい印象をもつ消費者も多いと考えられる。

このような商品種類の多さや給付条件の複雑さ・難しさのためか、医療保険加入においては、他の商品と比べて保障内容や価格を他の商品と比較してから加入するのが一般的となっている。

### 2——医療保険に関する誤解は多い

生保マーケット調査では、対象者の保険に関する知識の有無を知るために、保険に関するいくつかのクイズを行っている。医療保険については、医療保険やがん保険の基本的な仕組みを問う図表の(1)～(4)の4問に対して、「正しい」「正しくない」「わからない」のいずれかを回答してもらっている。

<sup>1</sup> 2012年3月に、全国に住む20-69歳の男女一般個人を対象に実施したインターネット調査。有効回答数5525サンプル。

各問の正答率と誤答率を順にみると、問(1)と問(4)は、対象者全体の6割以上が正答であり、他の2問より正しく理解されている。属性別に正答率をみると、年齢階層による差は少なく、加入者が非加入者よりも高い。ところが、誤答率をみると、加入者も非加入者も1割程度と同程度であり、加入者で誤答が少ないわけではない。次に、問(3)は、問(1)や問(4)と比べて正答率はやや下がる。問(3)についても、加入者は非加入者より正しく理解している割合は高い。年齢階層別にみると、正答率は年齢が高くなるほど高く、誤答率は年齢が高くなるほど低い。つまり、加入者で正しく理解する割合が高いが、非加入であっても年齢を追うことで、正しく理解する割合が高まっていると考えられる。また、問(2)は、今回の4問の中で最も正答率が低く、全体の3割程度しか正しく理解していない。属性別にみると、加入者は非加入者より正答率が高い傾向があるが、誤答率も加入者の方が高い。

〔図表〕 医療保険に関するクイズの正答率



以上から医療保険についての知識は、加入者の方が正しく理解している傾向があり、年齢が高まるほど正しく理解することもあるが、保険加入によって、あるいは年齢を追うことによって誤解が減るわけでもないようだ。

### 3— 保障内容の比較だけではなく、基本的な仕組みの理解も重要

非加入者を中心に「わからない」が多いことは想定していたが、今回のクイズは医療保険やがん保険の仕組みについての基本的な知識を問う内容であるにもかかわらず、意外に加入者にも誤答が多い。

一般に、生命保険に関する情報は、マス広告のほか、保険会社からの情報、あるいは友人・知人やインターネットを通じたクチコミなどから得ている。他の消費財の場合は、利用者による体験談が多くの情報を含んでいると考えられている。しかし、生命保険の場合、給付体験談にはお金の話題や身

内の病気に関する話題を含むため、多くの給付体験談が日常的に情報交換されているとは考えにくい。弊社で実施する一般消費者を対象とするインタビュー調査でも、友人・知人によるクチコミ情報としては「昔住んでいた家の近所のおじさんが〇〇と言っていた」「知らない人のブログに〇〇と書いてあった」など、生命保険利用者による体験談情報としては、古いものや素性がハッキリしないものなどの情報しか得ていないことも多い。こういったことから、一度生じた誤解は、なかなか解消されないのではないだろうか。

医療保険加入に際しては、商品や価格の比較を行う人が多い。しかし、個々の商品の保障内容の比較の前に、基本的な仕組みを理解するための情報も必要だろう。インターネット時代になり、自分が知っていることや関心を持っていることをより詳しく調べることは容易になったかもしれないが、知らないことや間違って覚えてしまっていることに気づく機会はあまりない。機会あるごとに契約内容を確認することも重要だろう。